

会 議 録

会議の名称		第1回豊中市環境審議会(第14期)		
開催日時		令和4年(2022年)7月26日(火) 16:00-18:15		
開催場所		WEB開催	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局		環境部環境政策課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由		—		
出席者	委員	猪井博登委員、加我宏之委員、小島理沙委員、小谷真理委員、諏訪亜紀委員、田中晃代委員、前迫ゆり委員、余田佳子委員、加納栄二委員、青木幸生委員、山本直子委員、熊本英子委員、廣田学委員		
	事務局	環境部：糸井部長、道端資源循環長 環境政策課：甫立次長兼環境政策課長、大西補佐、大道係長、今川主査、石原主査、結城主事、河瀬 減量計画課：立谷課長 家庭ごみ事業課：溝口課長、三島補佐 美化推進課：吉村課長 事業ごみ指導課：小坂課長 公園みどり推進課：檜橋課長、三川主幹、辻岡補佐、日高係長、奥田係長、益住主査		
	その他	(株) 総合環境計画		
議 題		<ol style="list-style-type: none"> 1. 会長・職務代理者の選任について 2. 諮問 <ul style="list-style-type: none"> ・第3次豊中市環境基本計画の中間見直し ・第3次豊中市環境基本計画の進行管理 3. 令和4年度(2022年度) 第14期環境審議会等のスケジュール 4. 第3次豊中市環境基本計画の中間見直し 5. 第3次豊中市環境基本計画の進行管理 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度(2022年度) 協働の取組みに関する意見交換会実施結果 ・環境報告書「とよなかの環境 ～2021年度 速報版～」 		
資 料		資料1：諮問 資料2：令和4年度(2022年度) 第14期環境審議会のスケジュール 資料3-1：第3次環境基本計画中間総括 資料3-2：第3次豊中市環境基本計画の中間見直し 資料4-1：令和4年度(2022年度) 協働の取組みに関する意見交換会実施結果 資料4-2：とよなかの環境～2021年度速報版～ 参考資料：第14期 環境審議会名簿、豊中市環境基本条例 豊中市環境審議会規則、第2次豊中市地球温暖化防止地域計画		
審議等の概要 (主な発言要旨)		別紙のとおり		

開会

- ・資料の確認
- ・会議成立の報告
- ・部長挨拶

1. 会長・職務代理者の選任について

○事務局

それでは議事に移ります。案件1、会長職務代理者の選任についてです。本日は今期初めての審議会となるため、会長が選任されるまでの間、豊中市環境審議会規則付則に基づき、豊中市長が議長を務めますが、本日、市長は公務で欠席のため、環境部長が議長として議事を進めます。よろしくお願ひします。

○部長

では私が議長を務めます。案件1、当審議会の会長を選任いただきます。豊中市環境審議会規則第4条の規定においては、審議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定めるとなっています。どなたか推薦等がありますか。

○委員

田中委員にお願いしてはどうか。

○全体

異議なし

○部長

ありがとうございます。それでは田中委員をお願いします。ここからは会長に議長をお譲りします。よろしくお願ひします。

○会長

それではここから議長を務めます。まず職務代理者の選任です。豊中市環境審議会規則第4条第3項の規定では、あらかじめ会長の指名する委員となっています。よろしければ前迫委員を指名したいと思います。前迫委員、いかがでしょうか。

○委員

承知しました。

○会長

では前迫委員、よろしく申し上げます。まず、本日の環境審議会は、全員がウェブで参加されています。よろしく申し上げます。また、案件において発言を希望する場合は挙手機能を使用するか、手をカメラにかざしていただき、私が指名したら音声をオンにしてご発言ください。皆さまのご協力をよろしく申し上げます。

では、次第に沿って進めます。案件2の諮問について事務局からご説明をお願いします。

2. 諮問

諮問事項 「第3次豊中市環境基本計画」の中間見直し

「第3次豊中市環境基本計画」の進行管理

○事務局

資料1の説明

○会長

諮問の趣旨内容について理解しましたので、本審議会において調査・審議させていただきます。

3. 令和4年度（2022年度）第14期環境審議会等のスケジュール

○事務局

資料2の説明

○会長

ご意見・ご質問はありますか。よろしく申し上げます。

○各委員

意見なし

4. 第3次豊中市環境基本計画の中間見直し

○会長

次の案件4に進みます。この案件では、第3次豊中市環境基本計画の中間総括、その後、第3次豊中市環境基本計画の見直しの審議を進めていきたいと思っております。それでは、環境基本計画の見直しについて、事務局からご説明をお願いします。

○事務局

資料 3-1、3-2 の説明

○会長

ご意見・ご質問があれば挙手をお願いします。よろしいでしょうか。

○委員

参考資料については後で質問したほうがいいのかわかりませんが、それ以外で 3 点あります。

最初は資料 3 の 1 の 1 ページです。「環境政策を推進するための総合的なしくみづくり」の②現状のところ、協働の取組みにおいては積極的に環境活動に関わる人がいる一方で、という文章です。これは 2018 年から全く表記が変わっていないと読み取りました。しかし、先日の協働の意見交換会のように、新しい形で子育て世代の方々が活動に参加され、今までとは違う形でさまざまな環境活動が始まっています。そういった現状にもかかわらず、5 年前と同じ表現はいかかなものかと気になりました。この部分の表現は考えていただきたいと思います。

次に、同じ資料 3 の 1 の 4 「都市における自然との共生をめざした社会づくり」です。先ほどご説明のあった緑被率、みどり率の数字です。緑被率が 12.9 パーセントとなっており、これは昔から取られている中で 2 番目に低い数字です。しかも、今回は 1.5 パーセントも下降したということですが、現状においても課題においてもその事について言及されていない状況です。現在数値が減ってしまっていることに対して、どうしていくべきかについては、もう一歩踏み込んで言及すべきではないでしょうか。

3 点目は、資料 3 の 2 の、最後のページ、「各関連計画の改定等に沿った見直し」という部分です。現在の、環境基本計画の目標 4 のところですが、5 年前に計画をつくるときに、豊中でも生物多様性地域戦略が必要ではないかということが審議会で議論されました。議論を受け、計画に「生物多様性認知度向上に向けた取組み」を位置づけたと思いますが、このことについては、今回の中間見直しでどのように取り扱うのでしょうか。少なくともここに書いている中間総括の内容とは違う内容になると思います。審議会でも議論するのか、前のまま書いておくだけにするのかについて、事務局の見解をお尋ねします。参考資料は別にして、気になったのは以上 3 点です。

○会長

資料 3 の 1 の 1 については、事務局にお尋ねしたらいいでしょうか。表現方法を変えるべきではということですが、そのようにしてよろしいですか。

○事務局

ご指摘のとおり、中間総括の中の 1 の、現状のところ、活動する個人や事業者の固定化

高齢化だけではなく、先日開催した意見交換会は、若い世代など多様な世代の方が参加、活動されていることが明らかになっておりますので、これらの経過も含め、また総合的にご意見を考慮し、書き換えたいと考えています。ご意見、ありがとうございました。

○会長

意見交換会については、次の話し合いの項目になります。

次に、みどり率についてです。みどり率が減った要因をもう少し深く分析してほしいという廣田委員のご意見に関して、事務局、あるいは公園みどり推進課にお聞きします。いかがですか。

○事務局

今回、緑被率調査およびみどり率の調査を含め、みどり率 24.1 パーセント、緑被率が 12.9 パーセントです。先ほど委員からご指摘があったとおり、緑被率が 1.5 パーセント低減しています。前回、平成 27 年度の調査と比較して、樹林樹木の減少で、大きな開発に要因が一つあります。また、災害等の倒木や街路樹の伐採等、去年調査したところでの要因分析を進めています。要因分析の結果をふまえ、委員のご指摘への対応について協議したいと思いません。

みどり率については、大きく樹林樹木の低減の影響がそのまま反映されています。草地等については若干の増加もあります。その辺りも含めて、今後の中間総括においてどのように進めていくかをまとめていきたいと考えています。

○委員

資料 3 の 1 をこの後、どのように計画の見直しの中で使っていくのか、活用の方法が分かりません。もし、この 3 の 1 の内容を具体的に計画に落とし込むのであれば、今、事務局からの説明は資料 3 の 1 には具体的に書かれていないと思います。そうしたことも含め、落とし込んでいただきたいという意見です。

○事務局

今、ご指摘があったとおり、3 の 1 の記載内容についてももう少し落とし込むことについて相談しながら進めます。

○会長

最後の質問ですが、4 ページ、資料 3 の 2、環境目標 4 です。生物多様性に関して、どのようにしていくかということです。前期、みどりの基本計画を策定する段階では、みどりの基本計画と一体で生物多様性を考えるということで作っていると思います。今後この整合を図るというわけではないということです。

○委員

2018年、第2次豊中市みどりの基本計画を並行して策定された際、みどりの基本計画が生物多様性地域戦略に代わるものなのか、みどりの基本計画の中に生物多様性の計画を盛り込むのかということを確認したところ、それは違うという話でした。審議会の中で、この生物多様性地域戦略をどのように扱うのか議論され、みどりの基本計画とは別に、環境基本計画の中に生物多様性地域戦略について検討する内容を盛り込もうということになったと思います。これは今回の中間見直しの見直し項目なのかどうか。5年前はこの審議会で検討されましたが、今回もこの審議会で検討されるのかどうか、またどう進めるのかという確認をしたいので伺います。

○事務局

こちらは環境基本計画の中で定めているため、みどりの基本計画の中の下位計画にあるとは考えていません。環境基本計画と同列、もしくは逆に上ではないかという位置付けと考えています。みどりの基本計画の中での位置付けは、私どもとしては考えていません。

○事務局

生物多様性戦略については、既に昨年、大阪府が策定されたということで、それを参考に、今後、生物多様性戦略について策定していくのかどうかも含め、事務局でも考えていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○委員

審議会で議論するのかどうかも含め検討すると理解してよろしいですか。

○事務局

審議会の中で検討していくということで、お願ひします。

○委員

今のご質問と重複しますがお願ひします。資料3-1の4番の「都市における自然との共生をめざした社会づくり」の部分です。ここでみどり率の減少、また、市民調査ではありますが、1000種あった植物種が3割減の706種にとどまっているということが挙げられています。また、最後の課題として挙げられていますが、エコロジカルネットワークの形成など生物多様性に配慮した取組みが求められています。今は環境省でも議論されている30 by 30、陸の30パーセント、海の30パーセントを確保していこうという新しいメッセージが続々と届いています。

またOECMのように、これまでは保全されていなかったエリアも含めての保全や、ワンヘルスのように、新しい自然共生社会ということで、自然をしっかりと保全しながら、私たち

の暮らしを豊かにしようというメッセージが、日本だけでなく国内外であります。そのことについて追求せず、課題に挙げないまま、今後、配慮するといった緩いことを言っている場合ではありません。「生物多様性に配慮する」ではなく、「生物多様性を保全する取組みを推進する」といった強いメッセージを含め、その部分を改定する必要があると思います。

それに対して、公園みどり推進課や事務局からは、おいおい考えていくといった緩やかな答えがありましたが、次のこの会議までに、どのように盛り込むことができるのか示していただく必要があります。大阪府では、私も委員として参加していますがかなり強力な生物多様性戦略ができました。しかし、豊中市としての特性もあるので、大阪府のとおりということは無理だと思います。また、それが合っているかどうかということから議論しなければなりません。4番の課題については、豊中らしい達成の仕方があると思いますが、これまでと全く違う環境基本計画の要素が国からも発信されていますので、そういったこともうまく盛り込んでいただくよう、よろしくをお願いします。

○事務局

委員からのご指摘を踏まえ、戦略を考えていくにあたり、豊中らしさということも十分に考慮した上で、次の審議会までに提示できるよう考えていきたいと思えます。

5. 第3次豊中市環境基本計画の進行管理

令和4年度（2022年度）協働の取組みに関する意見交換会実施結果について

○会長

案件5、第3次豊中市環境基本計画の進行管理についてです。この案件は、本年度実施した協働の取組みに関する意見交換会の結果を踏まえ、その後、豊中市環境報告書、豊中の環境、2021年度速報版(案)の審議を進めます。それではまず、協働の取組みに関する意見交換会について、事務局からご説明をよろしくをお願いします。

○事務局

資料4-1の説明

○委員

感想としては、豊中市の皆さんの熱心な活動と成果、そしてしっかりと協働しながら進んでいたことに対して、非常に驚き、感心しました。2日間にわたるワークショップの成果は先ほどのご説明どおりです。いかにこれからも継続していくか、若い世代に広げられるかが今後の課題として見えたというのが総括です。以上です。

○委員

当日、小島先生は、協働が進んでいる豊中市ならさらに循環型社会を進めていけるのではないか、また豊中らしさ、地域的なことについてまとめてくださいました。できれば小島先生の発言の要素を中間報告に盛り込めないかと思います。私自身は協働に関わっている側のため、少し複雑な思いを持っていましたが、楽しく参加できました。ありがとうございました。

○会長

市民力というか、一人一人が自立し、さらに協働すると副次的な効果、新しい価値が生み出されることを実感しています。せっかく Zoom で動画を撮っているので、これを編集すれば皆さんも見ることができます。私たちだけでなく、他の人にも見ていただきたいと思います。ノウハウがたくさん詰まっているので、こういったことはどんどん広げていったほうがいいと思います。動画編集や公開となると、相手の許可を得る必要があると思いますが、希望があれば見ていただけるようにしていただければと思います。

参加者のうち、ソーシャルギルドさんと、赤ちゃんからの ESD coral さんは、1 日目で知り合い、2 日目までにつながり、連携して事業を行っておられました。そういった人たちがいるということを知ることができたのは非常に良かったと思います。思い出だけでもわくわくします。

委員の方々に、ご意見があればお聞かせください。いかがでしょうか。

○委員

2 日目で A グループを傍聴しました。私たちの年代は、最初、全部を手弁当でしていましたが、今の若い人たちは、そんなことは絶対しないだろうと思っていました。しかし、若い方たちが非常に積極的で、実際につながっているということを知ってすごくうれしかったです。若い力もそういったつながりを求め、自分たちで活動しようとしていることを知ることができ、高齢者としてそれをさらにバックアップできないか、どうすればつながれるかと、後押しをしてあげたいと思いました。どこかで若い人たちにバトンタッチできるよう、私たちの活動で少しでも協力できればと思い、それを私どもの会員にも伝えました。

先ほど田中委員が言われた、どこかでそれを公開できればというお話は非常にいいお話です。ビデオなど動画で公開するチャンスがあればいいと思います。一部の人たちだけではもったいないと、つくづく思いました。ぜひ広めていただきたいと思います。

○会長

心強いコメントをありがとうございました。豊中の市民力の素晴らしさを感じ、感動しました。皆さんにもぜひ参加していただければと思います。参加者の方々から、豊中が好きで、ずっと住み続けたいという思いや、シビックプライドを感じることができました。

○委員

拝聴して、皆さんの感動がどれほどのものだったのか、非常に興味を持ちました。これまで Zoom でこういったことを行うのは難しかったと思いますが、今回、意見交換会でつながりも生まれたということは、工夫があったためでしょうか。それとも集まった団体が良かったのでしょうか。今回、何がうまく働いて遠隔で成功したのか、要因を説明してもらえると、参加していない人間にもよく分かると思います。何かいい工夫ややり方があったのですか。

○会長

さまざまな要因があると思います。何かあればお聞かせください。

○委員

前回の協働の意見交換会ではソーシャルギルドとして参加しました。赤ちゃんからの ESD coral さんと 1 回目につながり、2 回目までにはもう協働が始まっていたということに関しては、いくつか要因があると思います。まず、お互いに似たような活動をしていることは知っていました。1 回目に、どのような思いで活動しているか、オンライン上ではありますがお互いに知ることができ、一緒に何かできそうだと思えたということが一つあります。

また、偶然、1 回目と 2 回目の間に子ども服のリユースの事業をスタートしていました。そこで、つながってすぐ何かをする場がそのタイミングであったことが大きいと感じています。

○委員

非常に面白い事例でした。大学でも遠隔で学生のつながりを生むためにどうすればいいか、なかなか答えが見つからず難しい状況ですので参考にさせていただきたいと思います。一つはタイミングがあったということですが、実際に活動のあるタイミングで意見交換会があったということと、似た活動をしている団体が集まったことが大きかったということでしょうか。先生方のオーガナイズ力も優れていたと思いますが、タイミングや参加者が適切であれば、遠隔であっても組織のつながりを生むことができると考えてよいのでしょうか。

○委員

今回、参加されたメンバーが非常によかったということもあるかと思います。それでも 7 団体も集まれば 1 団体ぐらひはそこまで積極的ではないと思われるところがあってもおかしくありません。そんな中、参加者全員が非常に積極的で自分事化されており、それに対して非常に驚きました。

協働した活動ができるタイミング、チャンスがあったということもありますがそれだけではなく、お互いに、うちはこういうふうにする、次はこのような協力ができるといった話

をオンライン上で行い、ワークショップという形で成立していました。オンラインであれ対面であれ、参加者の意思や積極性が今回のような成功事例を生むのではないのでしょうか。一番驚いたのは、集まった人全員が自分事化されていたという点で、これはなかなか他の自治体では見受けられないことでした。豊中市民の意識の高さを感じて驚愕した 2 日間だったというのが私の感想です。

○会長

私もそう思います。さまざまな要素があると思いますが、ファシリテーターの先生も非常にうまくまとめてくださいました。また最初に意見交換会を行ったときの担当職員が別の課から参加されたことは、今回の成功の大きな理由の一つではなかったかと思います。

また、オンラインでの会議を始めた頃は、声の状況や音響など、技術的な面でも Zoom の使い方に慣れていませんでした。しかし、今やブレイクアウトルームも使いこなせるようになり、技術的な部分もある程度、慣れてきたということも成功の一つの要因であると思います。

環境報告書「とよなかの環境 ～2021 年度 速報版～」について

○会長

次に進みます。事務局から速報版の説明をお願いします。

○事務局

資料 4-2 の説明

○会長

審議会の評価についてご意見があればお願いします。

○委員

審議会評価について、大きく 2 点意見があります。

一つは、目標 1 の一つ目の項目にある、コロナ禍の影響でという文章ですが、何を指しているのかよく分かりません。資料 3-1 参考資料に、意見交換会の一覧がありますが、そこにもこの審議会評価が載っていました。これは、意見交換会の何かを指しているのか、意見交換会以外の目標 1 のことを指しているのかが分かりません。仮に、これが意見交換会以外を指すのであれば、そういったことが分かるようにするか、順番を逆にするといい工夫があるという気がします。

もう一つは先ほどの話にも出てきた目標 4 の、緑のところです。この二つ目の項目で、みどり率はとあります。みどり率は一番大きな環境目標です。ところが、みどり率の減少につい

て記載し、要因分析がないまま、関連指標である緑に対する満足度が文の結論になっているため、さも関連指標のほうが重要であるかのように読めてしまいます。そうではなく、やはり、みどり率が減少した、なぜ減少したかという、その中の樹林樹木が減った割合が多いということ、まずきちんと書いた上で、どうするかを書かなければならないと思います。また、一つ目の項目で、イベントを中止したという文章と、二つ目の項目で環境目標そのものの評価の順序も逆ではないでしょうか。

○会長

今の委員の質問について、審議会評価目標1のところでは、事務局にご質問します。コロナ禍の影響ということで、これが一体何を示しているのか、よく分からないので説明してほしいということです。回答をお願いします。

○事務局

コロナ禍の影響でという文章は、さまざまなイベントのことを指し、意見交換会とは別の内容となっています。

○委員

先ほど言ったとおり、意見交換会が表1の主要な評価の項目になりますので、順番は上下していただくか、市域のイベント全体ということが分かるような表現をしていただくことが必要です。

○会長

そこは書き方を工夫していただくということによろしいですか。

○事務局

より分かりやすい表現方法を考えたいと思います。

○会長

次の質問です。目標4について、みどり率減少の要因をしっかりと最初に書き、その後、満足度のことを書いてはどうかということです。これはいかがでしょうか。

○事務局

記載内容として代表指標と関連指標の重みの順序が逆になっているというご指摘です。そのとおりのところもあると思いますので、これについてはご指摘のとおり、まず、みどり率減少について記載するという修正を行います。

2点目の、イベント中止についての記載内容の順序についても、順序を入れかえる方向で

調整を行います。よろしく申し上げます。

○委員

分かりました。ありがとうございます。

○会長

次に、中身についてです。参考資料も含めご意見がありますか。

○委員

目標 4 に関連して、2021 年度、みどり率を一つの指標としていたため、こういった書き方なのかと思います。身近な里山を守る活動の紹介もあることと、豊中にも、ため池や河川など、水辺の環境があります。生態系としては、緑があり、川があり、ため池があるということです。先ほど OECM の話もしましたが、これまで光が当たっていなかったところにも光を当てることによって多様性の保全を図り、生態系のつながりを重要視するということがあります。そういったことを考えると、緑の指標しかないように見えるのが気になるところです。せっかく里山の保全活動をしているので、生物多様性につながるような数字などについて質問したいと思います。みどり率だけが目標 27 パーセントと設定されていますが、他の指標も必要ではないでしょうか。行政としてその辺をどの程度、認識されているのか、教えていただきたいと思います。

○事務局

みどり率を代表指標としているのは、緑被率に関しては樹林樹木という大きな緑で、豊中という市街地の中では、水面などを含め、芝地、屋上緑化を含めた緑を総合的に評価すべきという判断により、みどり率を挙げています。里山や水辺、水面等についても、このみどり率の中に含まれているという認識でおります。一定の数字としてはそこで包含して評価しています。ただ、今、委員からご指摘があったように、表記の仕方等についてはまた審議会からいただいた意見を踏まえ、引き続き協議したいと思います。よろしく申し上げます。

○委員

緑豊かな豊中という表現は、イメージも良く、豊中に住んでいる人も、緑豊かなまちがよいと思っていることは確かです。ただ、社会的に、自然共生社会やネイチャーポジティブというタームが生物多様性戦略の世界会議の中でも発信されています。緑という部分をもう少し拡大し、さまざまな生き物がいることや、水辺、ため池、河川など多面的に豊中の自然を捉えるべきだと思います。この資料は 2021 年度の結果のようなものですので、次回、策定時に少し検討していただければと思います。よろしく申し上げます。以上です。

○会長

貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。そういったご意見を受け、修正をよろしく申し上げます。

○委員

目標 2 の環境審議会評価の一つ目の項目で、コロナでライフスタイルが変わってエネルギーの使い方が大きく変化していることに言及されていますが、次の段の文章が違う内容になっており、変化した結果どうなったかが分かりません。また、後半の文章の内容は、総電力量の記載については修飾で、取組みの成果が表れてきているというところが主だと思えますが、この内容は、むしろ後ろの、二つ目の項目に入れて、地球温暖化の改定計画に基づき取組みを進めているという説明したほうがいいと思います。気になるのは、コロナでライフスタイルが変わりますということを行い、そこで放り投げてしまっているところです。この二つ目の項目にあるように、ライフスタイルの変化の記載と、これからの意識の醸成を行わなければならないという記載が分かれてしまっています。特に、一つ目の項目が1文目から問題提起をしてそこで終わってしまっているため、後の構文とつながっていません。言い始めて終わってしまった感があるため、2文目とあわせて整理してもらいたいと思います。

2点目は、一番上の目標 1 の上の部分です。引っ掛かった点は、審議会から施策の進捗状況を評価しましたとなっているところです。これは施策の進捗状況だったのでしょうか。施策だけではなく、周辺環境も全部評価したことになり、施策評価をしているという言い方ではなく、むしろ取組みを評価したということではないかと思えます。また、施策を評価しましたとしながら、目標 5 で、評価方法が今後の課題ですというのは、少し気持ち悪いと思うところがあります。目標 5 の1文目です。航空騒音の評価方法が課題としながら、先ほどの目標 2 では新たな数値を把握したことを記載しており、この書き方が何となくぶれていると思いました。

私の改正案は、取組みの評価にして、2に関してはこれで十分読めると思いますが、5の航空騒音の評価方法について課題ですというところを、航空騒音は課題ですといった程度にしたほうがいいと思います。以上です。

○会長

事務局からお願いします。目標 2 に関して、文章を二つに分けていますが、整理していく必要があるということですが、これについてはいかがでしょうか。

○事務局

指摘のとおり修正します。

○委員

この問題について結論づけてほしいということですのでお願いします。

○事務局

ありがとうございました。

○会長

2点目のご意見について、審議会からの施策の進捗状況評価ではなく、施策の取組みでしょうか。取組みの評価でしょうか。

○委員

施策だけでなく、市民の取組みにも言及している箇所もあるため、取組みの評価でいいと思います。施策について調べると、役人や政治家が行う取組みと書いてありました。ここでは、役人だけではなく、市民の取組みの進捗状況という意味も含んでいる気がします。そのため、取組みだと思ったという次第です。

○事務局

委員のご指摘どおりだと思いますので、各目標に対する取組みといった表現を考え、工夫したいと思います。また、航空機騒音などの評価方法のところでは、ここも確かに、評価方法ではなく、航空機騒音の課題という表現に改めたいと思います。

○委員

評価というところに対しての意見ということではありませんが、今回初めての出席のため、勉強の観点から3点、確認したいと思います。

まず排出係数についての言及がありました。1990年から排出係数は一定のものを使っていたというのは、市民の努力を把握する上で有効だということでした。排出係数を把握することが市民の努力とどう関係するのかが分かりませんでした。解説をお願いします。

2点目は、細かい話ですが、グループ購入についてです。太陽光発電のグループ購入を既に実施されているのか、今後、行う予定なのか。グループ購入に関しては、新電力から電力を購入するというものもあるので、そちらとのタイアップはどうなっているのかという確認です。

3点目は、省エネルギーに対して進捗状況が見られるという表現が、今回と前々回の資料で言及されていたと思います。省エネルギーが進むことは素晴らしいことなので、なぜ進んだのかという要因について、特に家庭部門ではなく、事業者の部門における省エネがどのように進んだかについて要因をお聞かせください。よろしくお願いします。

○事務局

1点目の排出係数について、もう一度ご説明します。1990年度に固定した推計値で進捗状況を公表してきたという部分については、第1次地域計画の改定の際、東日本大震災の影響で排出係数が非常に高くなっていました。そのため、1990年度の排出係数を使用するという形で、省エネルギーが進んだかどうかを評価できるようにしたというものです。

2点目のグループ購入については、現在豊中市では、ご指摘のどちらのグループ購入にも取り組んでいます。今回は、電力のグループ購入事業を実施し、排出係数を下げる取組みをしているという説明をしています。その他にも、太陽光発電パネルのグループ購入事業も併せて取り組んでいます。

3点目については、今すぐにご説明できる資料がありませんので後日説明させていただきます。

○委員

目標5の1文目についてですが、生活環境については市民や市の取り組みの成果として高い達成水準で安定していますと書かれています。一方、先ほど説明された前のページの目標5のグラフに、評価Dとあり、改善の傾向にはありませんと書かれています。この文章は齟齬が生じるといけないので、表現を変えたほうがいいのではないかと思います。またこの文章ですが、市民や市の取り組みの成果をアピールしたいのであれば、グラフで、2020年から2021年にかけて緑色の、道路騒音について1パーセント達成状況が上がっている点をアピールしてはどうでしょうか。ハイブリッドカーを購入したとか、公共交通機関を利用することによって達成状況が1パーセント上がったということをアピールしてはどうかと思います。

○事務局

今ご指摘いただいた内容で調整するよう検討します。ありがとうございました。

○委員

目標3について伺います。生活様式の変化に伴い、という出だしの部分は、やはりコロナ禍における生活様式の変化を指すと思います。それに伴い、家庭ごみの排出が増えているという内容については、食品ロスやプラスチックごみ増加の問題もあります。先ほどの審議で、中間見直し計画の中身にもプラスチックごみについての言及がありましたが、このプラスチックごみの検討については中身でもあまり触れられていません。これからのありようを示唆する内容を含むほうがいいと思いますが、何かお考えがあればご紹介ください。今後の施策を検討していくための視点となると思いますので、よろしくお願いします。

○事務局

今のご指摘どおり、確かにコロナ禍でプラスチックごみが増えています。プラスチックご

みが増えたことにより、リサイクル率が上がるというあまり喜ばしくない状況も起きています。そのため、こちらの目標3でも、プラスチックごみについて言及し、記載したいと思います。また、こちらの内容については、廃棄物減量等推進審議会での議論となるかもしれませんが。整合性を取る形で記載したいと思います。以上です。

○委員

目標1で、オンラインイベントやSNS、動画等、さまざまな手法で創意工夫を行い、普及啓発活動の新たな取組みが進んでいますとあります。こうした発信の効果について、検証はしていますか。

○事務局

例えば動画であれば再生回数などは把握しています。SNSに関しては、SNSから各ホームページにリンクを貼っているので、ホームページの閲覧回数でどの程度閲覧されているか計れると思います。以上です。

○委員

閲覧回数によって大体の数字が分かるということですが、それが満足のいく結果、求めている結果と合っているのかどうかを比較したほうが良いと思います。例えば、1万を目指していたのに結果が5000であれば、違う方法を探ったほうが良いという判断になります。新しい取組みと書いていることは全てしなければならないと思いますが、その方法が間違っていないのかを考えた上で、きちんと進んでいるかを検討してほしいと思います。

○事務局

ありがとうございます。ご意見を参考にして、さまざまな形でどのような発信方法が良いのか、常に考えていきます。よろしくお願いします。

○委員

審議会からの評価の前のページ、目標5のグラフについてです。2021年のダイオキシンのデータがないのですが、これはまだ出ていないということでしょうか。先ほど、この下の航空機の騒音についてはまだデータがないというご説明でしたが、ダイオキシンについてはどうでしょうか。また、この右側に書かれている文章の冒頭で、目標値の達成状況100パーセントには届きませんでしたという、否定的な言葉があります。このグラフを見ると、ダイオキシン類の達成率は毎年100パーセントということなので、この否定的な文章は削除し、大気汚染、水質、道路騒音の状況をそれぞれ記載すればよいと思います。以上です。

○事務局

ダイオキシンについては、本日は環境保全の担当者が欠席のため、後日確認して記載漏れ

であれば、後ほど追加します。航空機騒音については、先ほど言ったとおり、2020年までの数字しかありません。目標5の文章の書き方については、きちんとできていて当たり前という分野になりますので、こういった表記となっていますが、表現については工夫します。よろしくをお願いします。

○委員

目標2の電力の排出係数についてです。2008年に最初の地域計画ができたときは、変動の係数を使っていました。しかしその後、2011年に改定されたとき、固定の係数に変えるという議論があったと思います。当時の議論は、使用する係数は固定に変えるけれども、変動と固定、両方を表現していくということで、グラフには何年間か、二つ数値を出していたと思います。本日の説明では、その後ずっと固定だったけれども、今回また変動に戻したいということでした。そうすると、確かにグラフは途切れますが、変動・固定を両方出すのか、そうしないのかどうかについて確認したいと思います。

もう一つは、今回、電力の取り方が変わるということです。電力自由化前は、全部の数値が取られていて、その後何年か取られない期間があり、また今回、全部取ることになりました。2020年と2019年の間は波線かもしれませんが、今、載っている何年分かの折れ線グラフの、初めのほうは、全部取れていた数字が入っているのでしょうか。例えば2016年の数字は取れていたのか、ここに載っているものは全部、数字が取れていなかったグラフなのか、それによって表現の仕方が変わるのではないのでしょうか。仮に、2016年のマイナス3.7が全部取れている数字だとすれば、そこから22.4に減っているという見方ができます。この表の中で、自由化以前と比較することができるのかについて、確認したいと思います。係数についても、以前の審議会でもかなり議論されました。変更する経緯や理由について分かりやすく示してほしいと思います。

別に要望が2点あります。前のページの目標1で、今後の展望は分かりやすく図にしましたと事務局からの説明がありました。これについては図のほうの方が分かりやすいのか、文章のほうの方が分かりやすいのか、読む市民にとってどちらが読みやすいのか、気になりました。

もう一つは、できれば次回の審議会でお願いしたいのですが、みどり率、緑被率について、事務局の説明の中で、みどりに対する満足度が低い南部地域で初めてイベントが開催されたというお話がありました。5年前に緑被量調査をしたときは、豊中を7ブロックに分け、緑被率・みどり率の表の内訳を審議会に示していました。次回はぜひ、ブロックごとの数字を出してほしいと思います。以上です。

○事務局

順番にお伝えします。排出係数について、固定と変動を両方出せばいいのではないかとご意見でした。内部でも議論しましたが、この限られた紙面で排出係数が固定もしくは変動であるというデータを全て解説することは難しいため、今回は排出係数変動のみを採用

しました。排出係数が変動のもの、固定のもの両方を見ていくべきではないかというご意見に関しては、そのとおりです。われわれは、どちらも見ながら進行管理をしていくものと考えています。あくまでも今回の公表に際し、変動のものを公表したということです。

次に、2016年からのデータについて、全ての電力量が取れていたときがあるのかどうかというご質問ですが、2016年から既に自由化されたデータのため、この波線の部分は2019年と2020年の間のみという形になります。以上です。

○委員

今の事務局の説明について、去年までは固定で公表し、今回からは変動ということは、1年前の同じ資料を見比べると、折れ線グラフの数字や折れ線の折れ方が変わっているということですね。市民は変動や固定に詳しい人がそう多くいるわけではありませんが、中には去年のグラフと比較して見る人もいます。そういったことがあるので、グラフは1個しか載せないけれども、係数を変えているという補足が必要ではないでしょうか。

また、以前、変動から固定に変えたときにグラフを載せました。当時はまだ冊子形式で分量が多かったため、紙面も多かったと思います。3月に出す最終報告の際は、ページ数があると思うので、そこでは、評価の方法が変わることや、両方のグラフを示してこのように変わるということ、コラムにして丁寧に説明してはどうでしょうか。過去の審議会でも議論があったところですので、ぜひしっかりと示してほしいと思います。

○事務局

資料共有いたします。こちらの四角のアイコンになっている青いグラフが排出係数を固定にしたケースです。三角の緑の点線のグラフが毎年の変動の排出係数を用いたグラフです。いずれの場合も昨年度から本年度にかけて、非連続ですが数字が上がっている傾向となっています。

○委員

目標1の、図を示すか文章にするかについては回答を求めません。検討していただければ結構です。

○事務局

市の南部地域を含めた、都市マスタープランの7地区ごとの緑被率について、昨年度の調査において数字を取っています。本日は資料の準備がないため提示できませんが、検討した上で、委員の皆さまに提示する方法を協議します。

○会長

よろしく申し上げます。時間になりましたので、最後の案件に移りますがよろしいでしょ

うか。案件 6、その他について事務局各課から説明をお願いします。

○事務局

8月6日、8月7日に豊中まつりが豊島公園を中心に実施されます。その中で、環境に関わるブースを設置します。1日のみで、日時は8月7日12時半から18時半、場所は豊島公園内です。内容は、株式会社イオンファンタジーというアーケードゲームの会社と協働し、『ぐるぐるリサイクルん』というゲーム機を設置したコーナーを設けます。1回100円で子どもたちが楽しめるゲームとなっており、このゲーム機での売り上げは市の地球温暖化防止基金に寄附されます。

その他、クールスポットコーナーや給水機の設置、自然環境のパネル展、ごみ収集車や給水タンク車の展示などを行う予定です。環境に関わる全般を展示し、啓発に努めたいと考えています。お時間があれば足を運んでいただくとありがたいです。以上です。

○会長

以上をもって本日予定の案件は終了します。進行を事務局にお返しします。よろしくお願いいたします。

○事務局

会長、どうもありがとうございました。これで本日の会議を終わります。次回、第2回環境審議会は9月2日金曜日13時に予定しています。ご予定いただくようよろしくお願いいたします。

委員の皆さまウェブ会議からご退出ください。長時間お疲れさまでした。どうもありがとうございました。

(了)